



災害看護研究・教育プロジェクト

期間：2011年4月～2014年3月（3年間）

場所：日本赤十字看護大学および研究フェローの参加国

参加国：インドネシア、タイ、バングラデシュ

目的：

- 1) 災害多発国の救護において重要な役割を果たす看護師、保健師、助産師に焦点をあて、その国の文化、慣習などに照らして適正で、更にその国の被災者及びコミュニティの特性に基づく「災害看護」教育の内容と方法を開発する。
- 2) 本研究を通じて、日本赤十字看護大学が国際的な災害看護研究及び教育の拠点を形成する。



成果：

- 1) 参加各国の大学、看護・助産師学校において災害看護教育カリキュラム・シラバスを開発し、災害看護教育のテキストが作成される。
- 2) 参加国の研究フェロー及び日本赤十字看護大学の教員が災害看護に関する研究を実施する。
- 3) 日本赤十字看護大学が、国際的な災害看護研究及び教育の拠点となる。

方法：

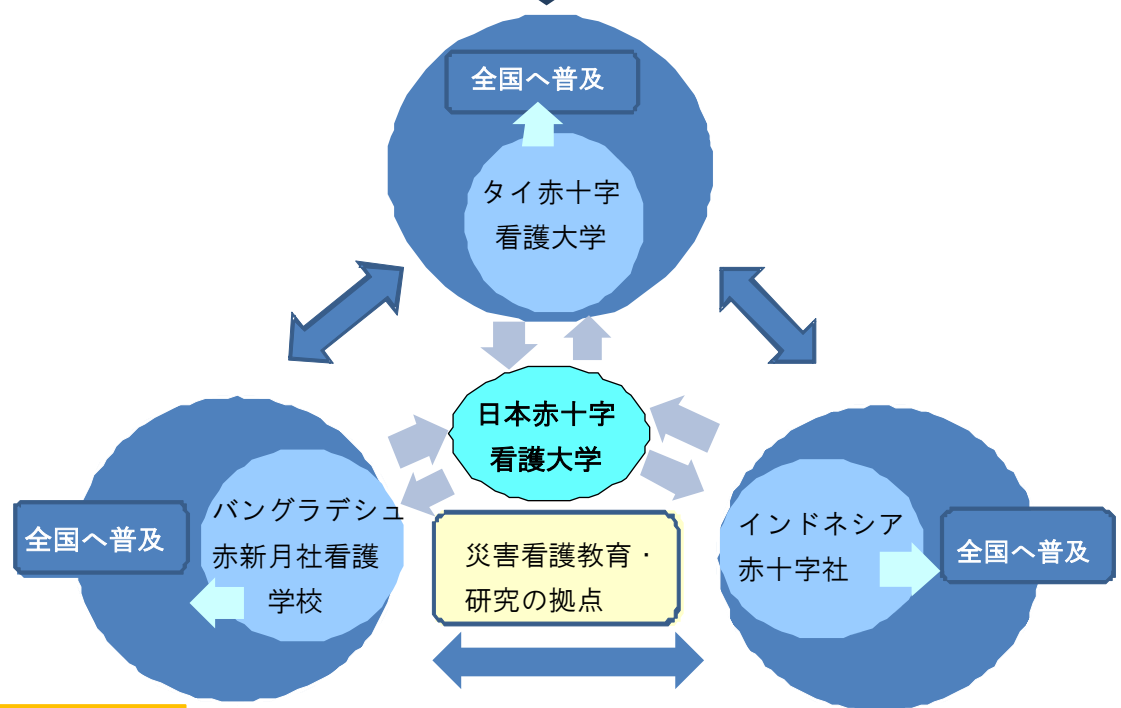
- 1) 赤十字のネットワークを駆使して、アジアの災害多発国から本プロジェクトの参加国を募集する。
- 2) 審査・面接のうえ、選ばれた国から研究員を受け入れる。
- 3) 研究員が自国で実施する災害看護教育に関するワークショップや教材作成などに対し、日本赤十字看護大学は専門家を派遣し助言・協力をを行う。
- 4) テキストの試用についてタイでワークショップを開催し、相互に学ぶ機会とする。
- 5) 日本赤十字看護大学教員に対し、特に東日本大震災にかかる研究を奨励し、研究費を助成し、日本における災害看護研究を強化する。
- 6) 3年間の研究の成果として、2014年1月下旬、日本赤十字看護大学において「災害看護国際シンポジウム」を開催する。



* 本事業は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業により実施しています。

上位目標：日本赤十字看護大学が国内および国際的なレベルにおいて災害看護教育・研究の拠点となる。

プロジェクト目標：アジアの災害多発国の赤十字・赤新月社の教育機関、医療施設と協力し、プロジェクト参加国の災害看護教育の開発に協力する。



- 2011年9～12月 ← アジアの参加国、研究員の募集、審査、決定（3か国）
- 2012年2～3月 ← 日本国内における研修・研究（3か国から2名ずつ6名）
- 2012年4～12月 ← 研究員の自国における災害看護カリキュラム、災害看護テキストの開発に向けたワークショップの開催、シラバス、テキストのドラフトを作成、ドラフトを試用した講義
- 2013年1～2月 ← 日本国内における研修・研究
- 2013年3～12月 ← 災害看護教育テキストの印刷、テキストを使用したモデル授業開催

2014年1月 災害看護・国際シンポジウム（於：日本赤十字看護大学）

日本赤十字看護大学 看護教育プロジェクト代表（教授） 連絡先：東浦 洋
Tel: +81-3-3409-0875 email: h-higashiura@redcross.ac.jp
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3